

## 地域の防災2

鬼北町 危機管理課

危機管理監 盛澤朗彦

今回は、10月号の続きとなります。今回は全般的なお話でしたので、少しフレーズを分けてお話ししたいと思います。

### 一 人間の思考

見て、聞いて、考えて、判断して行動するのが、普段の私たちの習慣だと思います。行動は、大方が経験則から導かれます。また、経験がなくてもある程度は学習という学びの中から自分の知識と応用で判断します。処理しきれない場合は、他人の言動に従い行動します。あるいは、他人の行動を見て同調し行動します。

災害時、大多数の方は、経験則からの判断が出来ないばかりか、学びの応用外というアクシデントが重なり、思考能力が停止してしまいパニックに陥ることが考えられます。良きリーダーがその場に居合わせたら最良の行動が出来ると思います。

### 二 リーダーに求められるもの

良きリーダーとは、この場合、声を出し周囲の者を引き付け自分

の意志を表明し、自らが行動することです。

また、資質については、信頼がトップで、責任感があり、研究熱心で相手の話に耳を傾けられる人と考えます。

### 三 防災組織

災害時に対応するには、皆さんの身の回りに必ずリーダーに相応しい方がおられると思います。その方を支える女房役であり、参謀として活躍してくれる縁の下の方を探すことが重要だと思います。その他の方々は任務分担を把握し、こなせる人々であることとがその組織力を遺憾なく発揮できると考えます。

自助には限界があります。共助の効果を最大限に活用するには、組織的に動くことです。また、人員の適材適所の配置です。一人が全てをこなすのは不可能です。

### 四 心構え

日々の生活を守る単位は、一人で行うものではなく、生活空間を共有する家族、生活基盤の周囲の人々で行うものと考えます。ひとり暮らしの方・災害時要援護者の方は、生活基盤である周囲の人々と普段から親交を持ち、協力体制を築くことが大切だと考えます。

### 五 避難所

避難所のお話をさせていただきます

ます。現在、避難所に指定されている場所は、公共施設がほとんどです。当然、施設管理者配下職員はごく少数、または不在であるため、災害時には少数の人員が別の部署から配置されます。

ただし、避難所は、管理者が場所の提供をするのと、職員は災害対策本部との連絡業務員および情報収集要員であることを認識してください。ホテルの接客係ではありません。他地区では、過去の災害で有能な公務員が心の病になったり、職場を離れたりしている事例を聞いたことがあります。派遣される職員も被災者であることを忘れないでください。そして、人一倍業務を抱えていることも忘れないでください。

### 六 避難所の運営方法

避難所の校区内の皆さまには、現有の公民館運営協議会（審議会）・学校運営協議会（審議会）にプラスして、自主防災会・防災士の会の地元の方々を会議の役員に招いていただき、平時から避難所の運営研究団体として活動していただくのが理想と考えます。

地域の実情は、地域の方が一番分かっています。また、避難所では当然物資の不足、生活環境の低下が優に想像できます。普段から準備をしておけば、と思われる方

もあるかも知れませんが、行政は予算に限りがあることから限界があります。しかし、地元だから地元の人材資源・物資資源を有効に活用できることも、地元の皆さんは知っています。防災用具を購入しなくても、代用品・農産物等地元調達が可能なものもたくさんあると思います。

### 七 ローリングストック

ローリングストックという言葉をご存じでしょうか。食べ物や生活用品を余分に自宅にストックし、使用するものから買い足すというシステムです。長期保存食を買い替えるため賞味期限切れということがよくあります。普段食べる食品でも、賞味期限を確認し、計画的に購入して食する回転を維持すれば1〜2週間は裕に過ごせる食品を保存することができます。

大量購入ではなく、計画購入・計画消費がローリングストックの基本です。苦手な方も最初に普段食する食材の1週間程度の保存計画をたて、その日使用する食材を買い足し、古い食材から食べればローリングストックになります。加工食材では、副食品を含め、半年程度賞味期限があるものが意外と身近に存在します。発想の転換で無理しないストックが可能となります。